

オリジナルメソッドの紹介

論理エンジンは他の教材には見られない、オリジナルの方法論を採用しています。

ここではその一部をご紹介します。

メソッド
①

主語・述語から文の要点をとらえる

ふいに壁の鳩時計が、かわいらしい音色で鳴り出した。

【問】 この文章の要点をまとめなさい。

論理

文の要点

「文の要点」とは主語・述語であり、特に述語に強調したいポイントが来る。

論理エンジンでは、言葉の規則性に着目し、主語・述語を「文法」としてではなく、「文の要点」を見抜く読解ツールとして教えています。

論理エンジンを学んでいない生徒は、「何が大事だろう…“音色がかわいらしい”ということかな?」などと迷いながら、なんとなく解答しがちです。このような生徒は、文がより抽象度を増し複雑になると、要点をとらえることが困難になります。

もし、「かわいらしい音色」を強調したいなら、筆者は、「ふいに鳴り出した壁の鳩時計はかわいらしい音色だった」と、述語として表現したことでしょ。

論理エンジンでは、「文の要点とは主語・述語であり、特に述語に強調したいポイントが来るのだから、筆者の言いたいことは“(鳩時計が)鳴り出した”ことにある」と指導します。このような押さえ方をすることにより、「文の要点」を直感的に識別することが可能になります。

入試で頻出の「要旨」把握問題。一文の要点の集合が段落要旨になり、段落要旨の集合が文の要旨となる以上、間違った要点を一文レベルでつかんでしまうようでは、全体の要旨把握問題、あるいはそれに基づく記述問題の正答も導けなくなってしまいます。

【答え】 鳩時計が(主語) 鳴り出した(述語)

メソッド
②

論理的関係をつかむ

筆者は筋道を立てて、自分の主張を他者に向かって説明しようとします。

その筋道の立て方(論理)は、つきつめれば三通りの言葉の使い方にすぎません。

論 理

イコールの
関係

筆者の主張は概して一般的・普遍的である。それをより分かりやすくするために、筆者はその裏づけとなる具体例を挙げたり、自分の体験を紹介したり、同じことを主張している人の文章を引用したり、比喩などを用いて説明することがある。

筆者の主張が一般であるのに対して、具体例や体験、引用などは具体となる。

$$\begin{array}{ccc} A & & A' \\ \text{筆者の主張} & = & \text{具体例・体験・引用} \\ \text{(一般・普遍)} & & \text{(具体)} \end{array}$$

文章を読むとき、それが一般的なのか具体的なのかをたえず意識し、一般と思われる箇所に線を引っ張っておく。それが、筆者が主張したい部分であるからである。

対立関係

筆者は、主張を鮮明にしたいとき、あえてそれと反対のものを持ち出し比較することで、より分かりやすくすることがある。

例えば、「日本文化について主張したいため、西洋文化と比べる」、「現在の選挙制について言いたいから、明治時代の選挙制と比較する」というような表現手法である。

$$\begin{array}{ccc} A & & B \\ \text{筆者の主張} & \longleftrightarrow & \text{対立するもの} \\ \text{(一般・普遍)} & & \text{(比較するもの)} \end{array}$$

因果関係

筆者はAという主張をしたあと、それを前提に、Bという結論を導き出すことがある。この場合、AがBの理由(根拠)となる。このA→Bを「因果関係」という。筆者はAを前提に、筋道を立ててBを説明したことになる。

現代文の入試問題の場合、「理由」を問うものが頻出する。こうした場合、A→Bの因果関係を発見すれば、Aが答えであることがわかる。

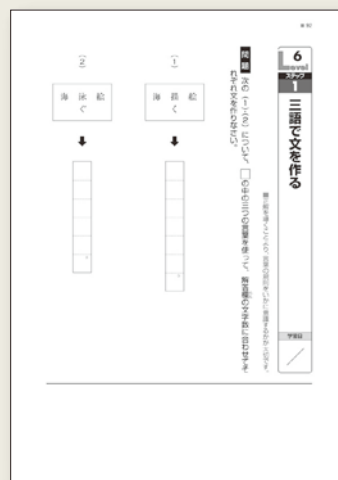
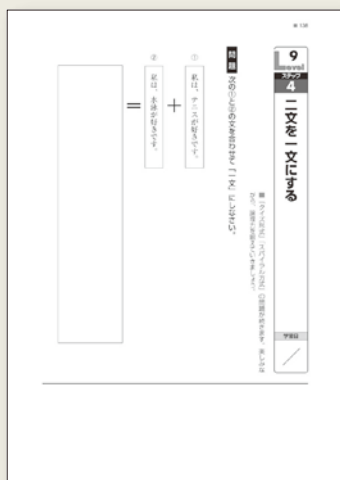
$$\begin{array}{ccc} A & \longrightarrow & B \\ \text{例: } \underline{\text{私は一生懸命勉強した。}} & & \underline{\text{だから、成績が上がった。}} \\ A & & B \end{array}$$

らせん階段を上るように、同じ学習テーマを難易度を上げて何度も学習することで習熟度を高めていく、本教材独自のシステムです。『論理エンジン』は一間一間に意味があり、前回の問題とは必ずどこかが違います。

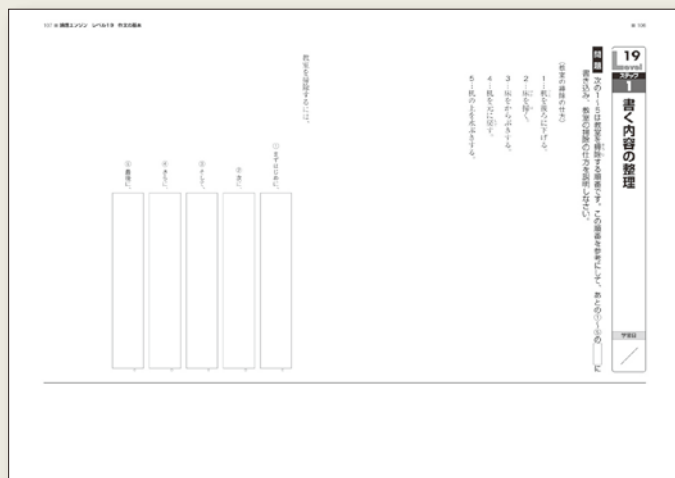
- ①まったく同じ文章から出題されていても、問われている内容が違う。
- ②同じテーマを習得させる問題であっても、難易度(抽象度)が違う文章で出題される。
- ③レベルの後半に進んでも、解答を導き出すために必要な要素はそれより以前に学習した内容である。

スパイラルの実例

論述問題を解く／小論文を作成するための効果的な学習法



まずは、三つの単語から一文を作る練習や、複数の文をまとめて一つの文にする練習からスタートします。その際、メソッド①「主語・述語から文の要点を捉える」(当パンフレット4P)を必ず意識させます。



次に、教室の掃除の仕方を例に、物事を整理し、それを順序立てて書く訓練をパズル形式で行います。



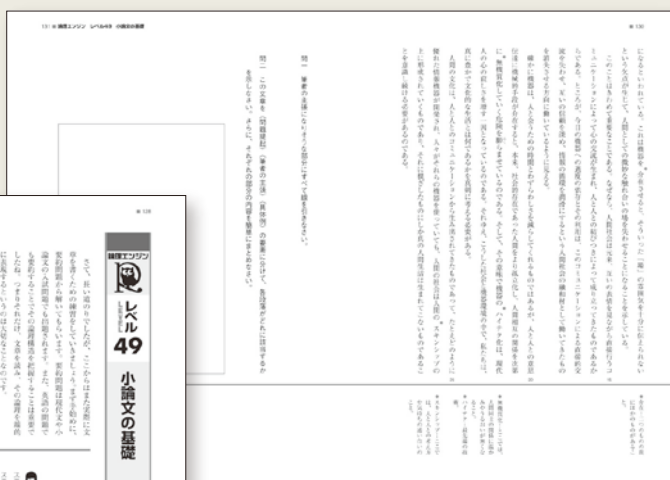
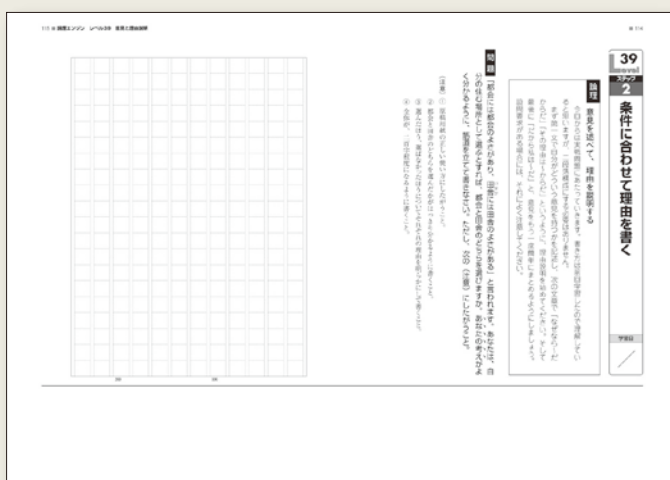
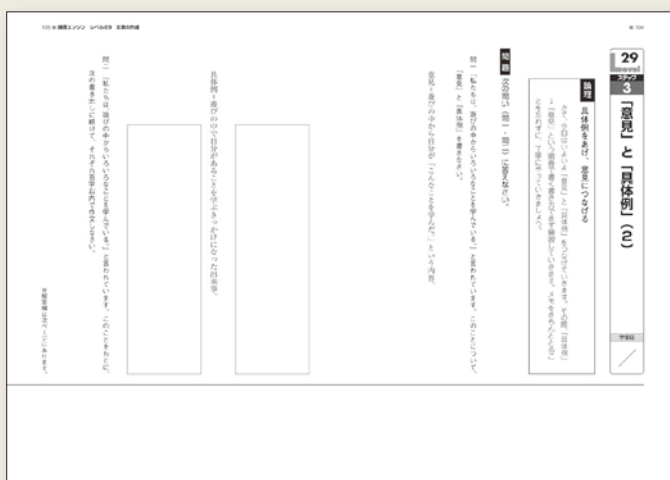
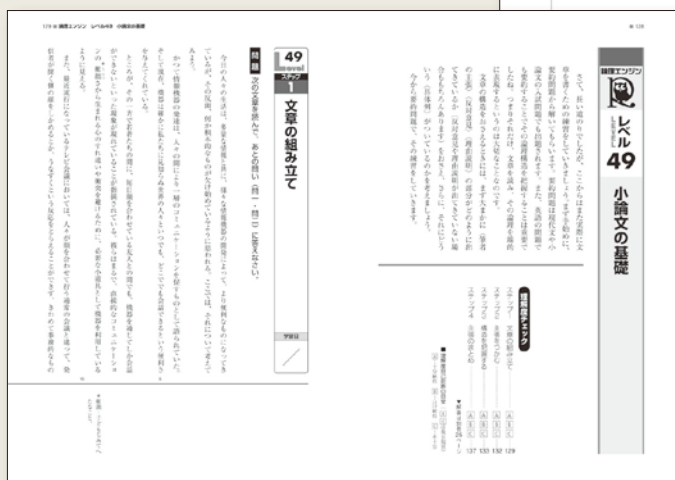
メソッド②「イコールの関係」(当パンフレット5P)を実際に使いこなすための訓練です。
まずは「具体例」をあげさせ、それを「自分の意見」につなげさせます。



メソッド③「因果関係」(当パンフレット5P)を実際に使いこなすための訓練です。
まず「自分の意見」を書かせ、次の文では「なぜなら」から始まる文で理由を説明させ、最後にもう一度「自分の意見」をまとめさせます。



小論文の基礎として、手始めに要約問題を解かせます。長文であっても、今まで学んできた筆者の主張や具体例といった「論理」を読み解き、各段落の要点を抽出することで、簡単に文の要旨を捉えることができます。



このように順を追って論理展開を学習することにより、論述・記述問題の解答や小論文の作成も容易にできるようになるのです。